看護小規模多機能型居宅介護
ケアホーム希望

希望（のぞみ）ニュース

Vol.98　令和3年11月号

（株）つつじヶ丘在宅総合センター
〒182-0006
調布市西つつじヶ丘2-19-6
第三コーポ横田 1F
☎ 03-5315-5722

やっぱり 家 がいい！　～家に勝るものはない！～

Yさん 73歳は、アルツハイマー型認知症と診断されてから 13年になる。その間、認知症対応型のデイサービス等を利用していたが、夫も多忙であり臨機応変に対応してもらえないことから小規模多機能『ケアハウス絆』への利用となった。利用が開始となった頃には認知症の症状も進行しており、職員が付きっきりで対応する状況であった。「通い」のサービスや「泊まり」のサービスを利用し、なんとか夫も介護と仕事の両立ができていた。

時には 排泄介助や食事介助、清潔ケア中に強く抵抗することもあった。

そんな Yさんも食べる力や飲み込む力が低下し、誤嚥性肺炎の危険性が高くなってきたため、看護小規模多機能型居宅介護『ケアホーム希望』へ、平成31年4月より移行した。

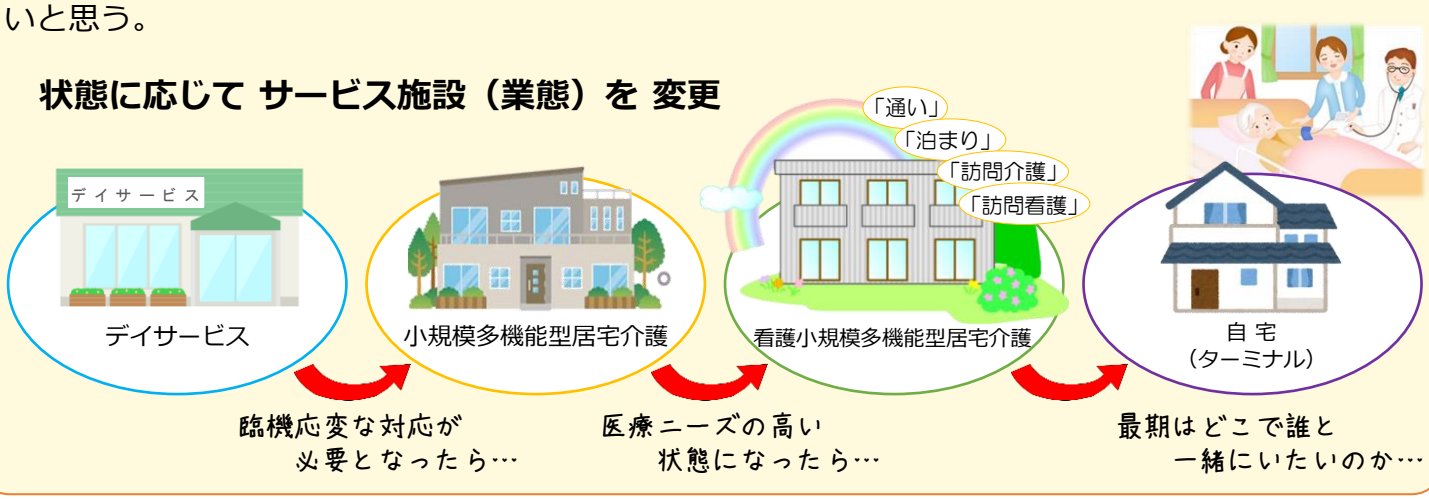
食事介助は特に時間がかかり、きざみ食やトロミをつけたり、ミキサー食にしてみたりと 1日かけて栄養補給、水分摂取を促した。

現在はアルツハイマー型認知症の末期状況で全介助を要するようになり、「泊まり」のサービスを利用していたが、Yさんは 胃ろうや点滴等も元気な頃から望んでいなく、自宅で静かに最期を迎えたいと望んでいた。家族も本人の意向にそってあげたいと自宅での看取りを強く望んだ。看取りを自宅でするにあたり、夫へ食事介助や吸引、体位変換やおむつ交換の方法を看護師や介護職が指導を行った。家族には1日に行う介護スケジュールを表にして、朝と夕には看護師が病状のチェックやケアを行いに訪問をし、夫のフォローを行っている。当初、主治医からは自宅に帰り1週間くらいだと宣告されたが、夫の献身的な介護で自宅に帰ってから3ヶ月が過ぎている。今も夫が1日かけて飲みやすい栄養補給ゼリーを飲ませている。

Yさんの体力はかなり低下し、衰弱して命の炎は消えそうであるが、住み慣れた我が家に帰れ、大好きな夫と過ごせている時は穏やかであり、幸せな日々である。

〝やっぱり家がいい〟そして、大好きな家族と過ごせる日々、環境を作ってくれる家族が素晴らしいと思う。

状態に応じて サービス施設（業態）を 変更



みなさんは…○○の秋？

ケアホーム希望のみんなはやっぱり〝食欲の秋〟が一番多い！

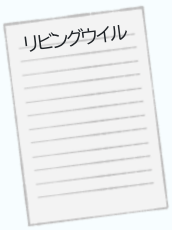
食欲の秋

夏のゴーヤカーテンから
色鮮やかな冬の花壇に 模様替え

ケアホーム希望の 介護教室 第8回

知っていますか？

『リビングウイルという方法』



『**リビングウイル**』とは … **「生前の意思」**という意味です。

回復の見込みがなく、すぐにでも命の灯が消え去ろうとしているときでも、現代の医療は 生かし続けることが可能です。人工呼吸器や体内に酸素を送り込んだり、胃に穴をあけて胃ろうで栄養を摂ったり、ひとたびこれらの延命措置を始めたら、はずすことは容易ではありません。

生命維持装置をはずせば死に至ることが明らかで、医師が躊躇するのです。

あらゆる手段を使ってでも生きたいと思っている方々の意思も、尊重されるべきことですが、一方でチューブや機械につながれて、辛い闘病を強いられ、「回復の見込みがないなら安らかにその時を迎えたい」と思っている方々も多くいます。

人間が人間としての尊厳を保ったまま死を迎えることを〝**尊厳死**〟といいます。医療技術を使って延命処置を行わずに自然の経過のまま死を受け入れることです。

この〝尊厳死〟には『**リビングウィル**』などによる本人による意思表示が必要となります。

ぜひ、ご家族で一緒に『リビングウイル』（自分の最期）について話し、考えてみてください。